

祭光

745号

2022年11・12月

日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
http://den-church.jp/

その日が来れば

イザヤ書 第一章一〜一〇節
ヨハネの手紙一 第五章一〜五

牧師 高橋 和人

アドベント・待降節を迎えました。これは、教会の暦の呼び方です。今日の日から、クリスマスに向かう日々を意識して過ごします。特に礼拝にはクリスマス前にふさわしい聖書箇所が用いられ、説教がなされます。

このように、一年の歩みを刻んでいるのは、人は歴史の中に生きるものであることを意識するからです。今年はコロナ禍と戦争の声の中でアドベントを迎えました。人の歴史、その多くは平和ではなく、戦争によって語られます。戦争によって歴史は大きく流れが変わります。人の歩みも歴史に飲み込まれてしまっています。

聖書は神が言葉をもって世界を創り、歴史を動かしてきたと語ります。歴史に神の御心があることを見えてきました。神が歴史に関わっておられることをみつけてきました。

それではわたしたちが歴史を見る時に、今の現代の不条理で空しく見える世界に何を

見ることが出来るのか。それは、人生はむなし
いという以上のものをもたらしてくれるのか。
聖書は、神と人との生きた関係を問う。旧約
聖書は、神の前の人間の現実を伝えるもので
す。その中で大事なことは現実に向き合っ
て、何を見ているかということです。

イザヤの時代、イスラエル・ユダは古代の
残忍な軍事帝国アッシリアの侵攻にさらされ
ました。アッシリアは古代最初の軍事力に特
化した帝国と言われます。戦争と侵略によっ
て周辺の国々を吸収し、中東地域全体を支配
する大帝國を築きました。その攻撃は残忍を
極めイスラエル・ユダは蹂躪され、二度にわ
たって強制移住させられ、国の半分は滅亡し
国土は荒廃した。人々は恐怖と絶望に向き合
わねばならなかった。それが現実であった。
預言者は神の言葉を伝える役割を与えられ
ました。

イザヤ書には「闇の中を歩む民は、大いな

る光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が
輝いた。あなたは深い喜びと、大きな楽しみ
をお与えになり、人々は御前に喜び祝った。
刈り入れの時を祝うように、戦利品を分け合っ
て楽しむように。彼らの負う軛、肩を打つ杖、
虐げる者の鞭を、あなたはミテイアンの日の
ように、折ってくださった。地を踏み鳴らし
た兵士の靴、血にまみれた軍服はことごとく、
火に投げ込まれ、焼き尽くされた。ひとりの
みどりごがわたしたちのために生まれた。ひ
とりの男の子がわたしたちに与えられた。権
威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指
導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱
えられる。』（九章一〜五節）と旧約を代表す
るもう一つのクリスマス、キリスト証
言があります。そこには戦争の悲慘が背景に
あることが分かります。

今日の箇所でもアッシリアの侵攻が背景に
あります。しかし、イザヤはここで希望を語っ
ています。彼は無残に切り倒された切り株を
見えています。それはダビデ王家の断絶、歴史
的破局を示します。実際イスラエルそしてダ
ビデ家はアッシリアの後にバビロニアに滅ぼ
されてからは王位に復帰することはありませ
んでした。

ところがイザヤは王家が失われたところに
なお芽吹きを見ます。エッサイはダビデ王の
父です。ダビデ家は王家としては滅びますが、
イザヤは再生の希望を見出します。王ダビデ
が立てられたのはエッサイの子を選んだ神の
選びによるからです。芽吹きはダビデを選ん
だ神の選びが新たな芽を生えさせる、そのこ
と自体が失われたわけではないことを示しま
す。